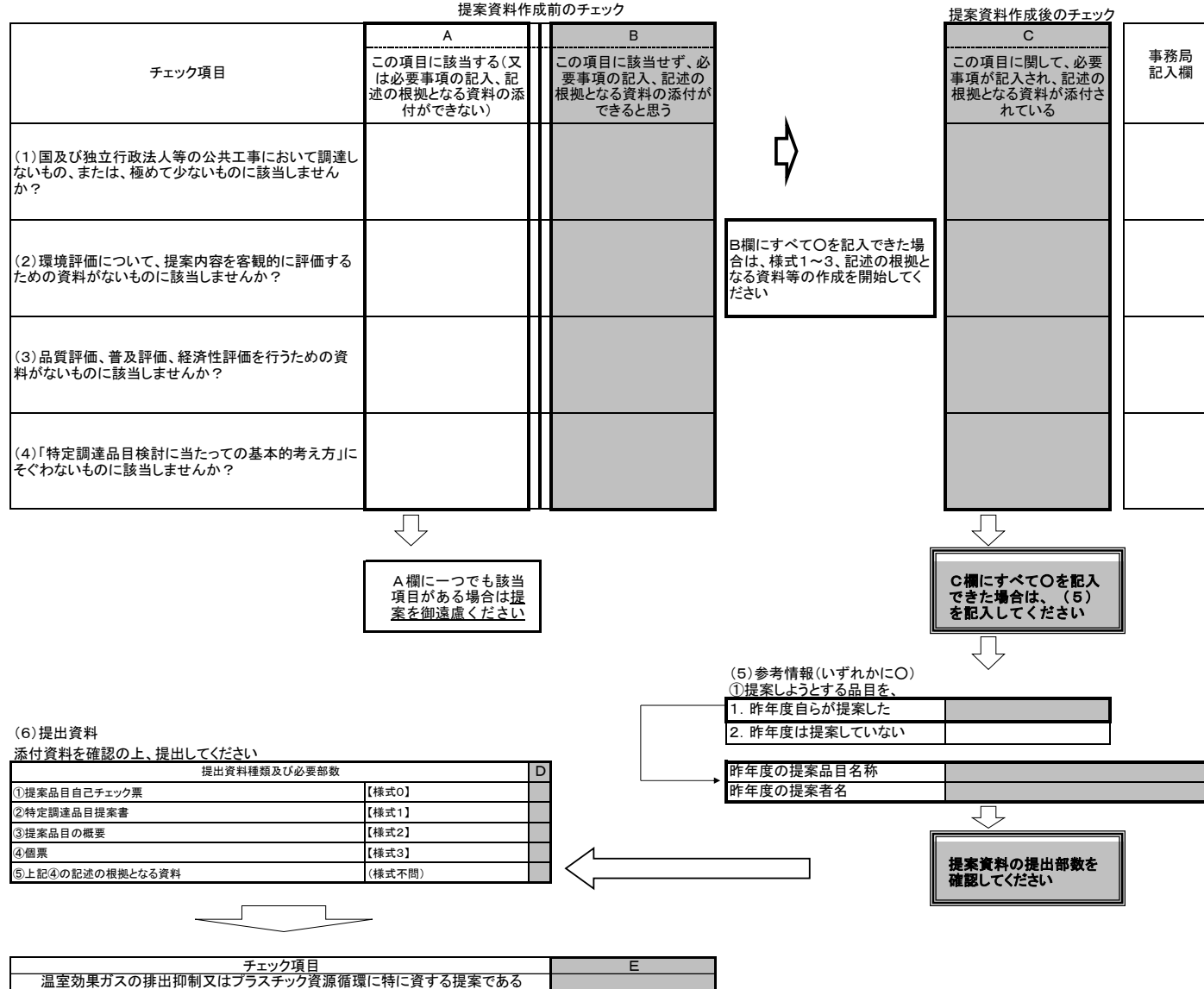


提案品目自己チェック票

注意) 特定調達品目としての検討は、提案者の責任において提供された情報に基づいて実施します。万が一、提供された情報に故意に虚偽の内容が含まれている場合、又は記入内容に疑義が発生した場合は検討を取り止める場合がありますので、あらかじめ御了承ください。

- ① 記入要領に従って、提案予定品目について(1)～(4)のチェックを実施してください。
- ② 以下のチェックの結果、B欄にすべて〇を記入できた場合は、様式1～3と、その記述の根拠となる資料等の作成を開始してください
- ③ 提案資料作成後、提出の前に再度自己チェックを行い、C欄に〇を記入してください
- ④ (5)参考情報、(6)提出資料の確認をして、〇を記入してください。



【様式1】

環境省大臣官房環境経済課 あて

年 月 日

特定調達品目提案書

提案者名 (会社・団体名等)				印
代表者名	役職		氏名	印
所在地	〒			
	住所			
担当者連絡先 <small>(事務局からの 連絡先になります)</small>	部課名			
	役職名			
	氏名			
	電話番号	内線		
	FAX			
	電子メールアドレス			
郵便物等の送付先	〒			
	住所			

所在地と同じ
場合は記入

提案品目の概要

分 類	
-----	--

(資材、建設機械、工法、目的物のいずれかを選択)

グリーン購入法の趣旨に基づき、特定調達品目として、以下の品目を提案します。

(1)提案品目名	統 品 目 合 名																				
	個 品 目 別 名		提 案 者 名																		
(2)提案品目のURL																					
(3)提案品目の概要	温室効果ガスの排出抑制に特に資する提案である場合は右枠に○を記載			チェック																	
(4)提案品目の環境面のメリット																					
(5)判断の基準(案)																					
(6)比較対象品目名																					
(7)比較対象品目の選定理由																					
(8)NETIS、環境ラベル等への登録状況																					
(9)提案品目の用途 (使用する分野該当する分野を選択してください) ※主分類1～3は、使用頻度の高いものから順に選択	主な用途																				
	主分類1 主分類2 主分類3	道路, 河川, 公園, 港湾, 空港, 建築, その他(具体名を記入) より選択																			
	細分類	※工法・目的物の場合は以下より選択 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%;">舗装</td> <td style="width: 33%;">地盤改良</td> <td style="width: 33%;">止水壁</td> </tr> <tr> <td>盛土</td> <td>土壌浄化</td> <td>屋上緑化</td> </tr> <tr> <td>プレキャスト</td> <td>水質浄化</td> <td>更新技術</td> </tr> <tr> <td>汚泥・土</td> <td>多自然型護岸</td> <td>その他</td> </tr> <tr> <td>基礎杭</td> <td>法面緑化</td> <td></td> </tr> <tr> <td>留連壁</td> <td>シールドトンネル</td> <td></td> </tr> </table>			舗装	地盤改良	止水壁	盛土	土壌浄化	屋上緑化	プレキャスト	水質浄化	更新技術	汚泥・土	多自然型護岸	その他	基礎杭	法面緑化		留連壁	シールドトンネル
舗装	地盤改良	止水壁																			
盛土	土壌浄化	屋上緑化																			
プレキャスト	水質浄化	更新技術																			
汚泥・土	多自然型護岸	その他																			
基礎杭	法面緑化																				
留連壁	シールドトンネル																				

分類：
提案者：

品目分類：

品目：

(提案品目の概要が分かる図、写真を含むシートを1枚添付)

分類: 品目分類: 品目:
 提案者:

1. 環境評価

(1) 地球温暖化に関する特性

「採取」、「製造」、「運搬」、「建設」、「使用」、「廃棄」の各ライフステージにおいて、比較対象品目との比較で、地球温暖化に関する環境影響の評価を行ってください。評価は、可能であれば定量的評価を行ってください。比較対象と明確な差異が無いものについては、定量的評価を省略して定性的評価のみとしていただいても構いません。

※評価の詳細については、資料B「グリーン購入法の公共工事の技術評価基準」の「4. 環境評価」を参照してください。

(単位:)

ライフステージ	採取段階	製造段階	運搬段階	建設段階	使用段階	廃棄段階	合計
評価							0

※根拠となる資料を別途提出してください。

上記表に、「優れる」又は「劣る」が存在する場合、「優れる」点と「劣る」点の内容と程度をそれぞれ記入。環境負荷増大が懸念される場合は必ず記入。

○環境負荷低減の内容と程度に関する自己評価 (「優れる」点)	●環境負荷増大の内容と程度に関する自己評価 (「劣る」点)

①環境負荷低減内容と程度に関する自己評価の根拠
 環境負荷低減内容と程度について、具体的かつ定量的に御説明ください。

- ・調達1単位当たりの環境負荷低減効果
- ・公共工事に普及した場合の全体の環境負荷低減効果

資料No.

②環境負荷増大が懸念される内容と程度に関する自己評価の根拠
 環境負荷増大が懸念される内容と程度について、具体的かつ定量的に御説明ください。

資料No.

分類: 品目分類: 品目:

提案者:

③温室効果ガスの排出抑制又はプラスチック資源循環に特に資する提案である場合その効果概要

--

(2) 廃棄物・資源に関する特性

「採取」、「製造」、「運搬」、「建設」、「使用」、「廃棄」の各ライフステージにおいて、比較対象品目との比較で、廃棄物・資源に関する環境影響の評価を行ってください。評価は、可能であれば定量的評価を行ってください。比較対象と明確な差異が無いものについては、定量的評価を省略して定性的評価のみとしていただいても構いません。

※評価の詳細については、資料B「グリーン購入法の公共工事の技術評価基準」の「4. 環境評価」を参照してください。

(単位:)

ライフステージ	採取段階	製造段階	運搬段階	建設段階	使用段階	廃棄段階
評価						

※根拠となる資料を別途提出してください。

上記表に、「優れる」又は「劣る」が存在する場合、「優れる」点と「劣る」点の内容と程度をそれぞれ記入。環境負荷増大が懸念される場合は必ず記入。

○環境負荷低減の内容と程度に関する自己評価 (「優れる」点)	●環境負荷増大の内容と程度に関する自己評価 (「劣る」点)

①環境負荷低減内容と程度に関する自己評価の根拠
環境負荷低減内容と程度について、具体的かつ定量的に御説明ください。

- ・調達1単位当たりの環境負荷低減効果
- ・公共工事に普及した場合の全体の環境負荷低減効果

資料No.

②環境負荷増大が懸念される内容と程度に関する自己評価の根拠
環境負荷増大が懸念される内容と程度について、具体的かつ定量的に御説明ください。

分類:
提案者:

品目分類:

品目:

年 月 日

--

資料No.

分類: 品目分類: 品目:
 提案者:

(3) 有害化学物質に関する特性

「採取」、「製造」、「運搬」、「建設」、「使用」、「廃棄」の各ライフステージにおいて、比較対象品目との比較で、有害化学物質に関する環境影響の評価を行ってください。評価は、可能であれば定量的評価を行ってください。比較対象と明確な差異が無いものについては、定量的評価を省略して定性的評価のみとしていただいても構いません。

※評価の詳細については、資料B「グリーン購入法の公共工事の技術評価基準」の「4. 環境評価」を参照してください。

(単位:)

ライフステージ	採取段階	製造段階	運搬段階	建設段階	使用段階	廃棄段階
評価						

※根拠となる資料を別途提出してください。

上記表に、「優れる」又は「劣る」が存在する場合、「優れる」点と「劣る」点の内容と程度をそれぞれ記入。環境負荷増大が懸念される場合は必ず記入。

○環境負荷低減の内容と程度に関する自己評価 (「優れる」点)	●環境負荷増大の内容と程度に関する自己評価 (「劣る」点)

①環境負荷低減内容と程度に関する自己評価の根拠
 環境負荷低減内容と程度について、具体的かつ定量的に御説明ください。

- ・調達1単位当たりの環境負荷低減効果
- ・公共工事に普及した場合の全体の環境負荷低減効果

資料No.

②環境負荷増大が懸念される内容と程度に関する自己評価の根拠
 環境負荷増大が懸念される内容と程度について、具体的かつ定量的に御説明ください。

資料No.

分類: 品目分類: 品目:
 提案者:

(4) 生物多様性に関する特性

「採取」、「製造」、「運搬」、「建設」、「使用」、「廃棄」の各ライフステージにおいて、比較対象品目との比較で、生物多様性に関する環境影響の評価を行ってください。評価は、可能であれば定量的評価を行ってください。比較対象と明確な差異が無いものについては、定量的評価を省略して定性的評価のみとしていただいても構いません。

※評価の詳細については、資料B「グリーン購入法の公共工事の技術評価基準」の「4. 環境評価」を参照してください。

(単位:)

ライフステージ	採取段階	製造段階	運搬段階	建設段階	使用段階	廃棄段階
評価						

※根拠となる資料を別途提出してください。

上記表に、「優れる」又は「劣る」が存在する場合、「優れる」点と「劣る」点の内容と程度をそれぞれ記入。環境負荷増大が懸念される場合は必ず記入。

○環境負荷低減の内容と程度に関する自己評価 (「優れる」点)	●環境負荷増大の内容と程度に関する自己評価 (「劣る」点)

①環境負荷低減内容と程度に関する自己評価の根拠
 環境負荷低減内容と程度について、具体的かつ定量的に御説明ください。

- ・調達1単位当たりの環境負荷低減効果
- ・公共工事に普及した場合の全体の環境負荷低減効果

資料No.

②環境負荷増大が懸念される内容と程度に関する自己評価の根拠
 環境負荷増大が懸念される内容と程度について、具体的かつ定量的に御説明ください。

資料No.

分類: 品目分類: 品目:

提案者:

(5) その他の環境負荷特性【記入: 】

前項(1)～(4)以外の特性に関して環境負荷低減効果があれば、その特性を上記括弧内に記入し、「採取」、「製造」、「運搬」、「建設」、「使用」、「廃棄」の各ライフステージにおいて、比較対象品目との比較で、環境影響の評価を行ってください。評価は、可能であれば定量的評価を行ってください。比較対象と明確な差異が無いものについては、定量的評価を省略して定性的評価のみとしていただいても構いません。

※評価の詳細については、資料B「グリーン購入法の公共工事の技術評価基準」の「4. 環境評価」を参照してください。

(単位:)

ライフステージ	採取段階	製造段階	運搬段階	建設段階	使用段階	廃棄段階
評価						

※根拠となる資料を別途提出してください。

上記表に、「優れる」又は「劣る」が存在する場合、「優れる」点と「劣る」点の内容と程度をそれぞれ記入。環境負荷増大が懸念される場合は必ず記入。

○環境負荷低減の内容と程度に関する自己評価 (「優れる」点)	●環境負荷増大の内容と程度に関する自己評価 (「劣る」点)

①環境負荷低減内容と程度に関する自己評価の根拠
環境負荷低減内容と程度について、具体的かつ定量的に御説明ください。

- ・調達1単位当たりの環境負荷低減効果
- ・公共工事に普及した場合の全体の環境負荷低減効果

資料No.

②環境負荷増大が懸念される内容と程度に関する自己評価の根拠
環境負荷増大が懸念される内容と程度について、具体的かつ定量的に御説明ください。

資料No.

分類:

品目分類:

品目:

提案者:

(6) 包括的評価

以下の表には、前項(1)～(5)の環境評価がそのまま転記されています。

この表の中では、黄色の網掛け部分については特に入力はありません。

「環境分野ごとの評価(定性評価)」については、資料B「グリーン購入法の公共工事の技術評価基準」の「4. 環境評価」(3)包括的評価及び(4)環境評価の例を参考にして御記入ください。

	ライフステージ						環境分野ごとの評価	
	採取段階	製造段階	運搬段階	建設段階	使用段階	廃棄段階	定量評価	定性評価
地球温暖化 (CO2排出量)							—	
廃棄物							—	
有害化学物質							—	
生物多様性							—	
その他							—	

分類: 品目分類: 品目:

提案者:

2. 品質評価

(1) 提案品目の品質基準、施工指針・基準等

①-1 有無

(ある、ない、不明より選択)

①-2 内容 (最大5つまで。行の挿入等は禁止)

品質基準がある場合は、以下の順番で記述してください (比較対象品目も同様)。

- ・ JIS、JASの公的基準
- ・ 構造物に関する国等の技術基準類 (道路橋示方書など)
- ・ 明文化されている協会基準など

	名称・番号	作成者	備考 (作成見込みの場合はその旨と見込み時期を記入)
1			〇〇年〇〇月に策定予定
2			
3			
4			
5			

②根拠資料

—
資料No.

(1)' 比較対象品目の品質基準、施工指針・基準等

①-1 有無

(ある、ない、不明より選択)

①-2 内容 (最大5つまで。行の挿入等は禁止)

	名称・番号	作成者	備考
1			
2			
3			
4			
5			

②根拠資料

—
資料No.

分類: 品目分類: 品目:

提案者:

(2) 目的物の性能を確保する条件(使用に当たっての制限条件等)

① 自己評価

[Blank box for self-evaluation]

(比較対象と比べて制約が、同等、小さい、大きい、より選択)

② 自己評価の根拠となる具体的な使用条件、使用範囲、使用方法等

[Large blank box for specific usage conditions, range, and methods]

資料No.

(2) 安全性・労働環境衛生性

① 自己評価

[Blank box for self-evaluation]

(比較対象と比べて危険性が、同等、低い、高い、より選択)

② 自己評価の根拠となる具体的な条件等

[Large blank box for specific conditions]

資料No.

分類: 品目分類: 品目:

提案者:

3. 普及評価

(1) 供給可能地域(地域、季節による入手の難易度等)

① 自己評価

(比較対象と比べて入手難易度が、同等、低い、高い、より選択)

② 自己評価の根拠となる具体的な供給可能地域

	供給可能地域	供給が困難な地域
具体的な地域名		
理由等		

資料No.

③ 提案品目を生産している企業等(判断の基準を満たす企業に限る)

企業名	担当部署	担当者名	連絡先		供給可能量	供給可能地域 例: 〇〇県、〇〇県
			電話	メール		

※記載された企業や、記載された企業で製造している特定の商品を確認するものではありません。

分類: 品目分類: 品目:

提案者:

(2)使用実績等

① 工事件数、普及率

出荷数量、工事件数など		提案品目の普及率
出荷数量、工事件数など	提案品目・比較対象品目を含む全体	
資料No.		

② ①が困難な場合、比較対象と比べた普及状況についてのコメント。

③提案品目の公共工事における使用実績（国及び独立行政法人等による実績に限る）

		3年前	一昨年度	昨年度	平均
数量	単位				
金額	単位				

④需要と供給のバランス

項目	量	単位	備考
現状における供給量			
指定されたことによる供給見込み量			
調達可能量(需要量)			

※需要量が把握できていない場合は不明と記載して構いません。

分類: 品目分類: 品目:

提案者:

⑤提案品目の使用例（国及び独立行政法人等による実績を優先して記入）
 （最大10事例まで。行の挿入等は禁止。書き切れない場合は別途一覧表を添付）

1	年度	発注者／施工場所	工事名称	用途・使用数量	実績報告書等
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

資料No.

⑥今後の普及、価格低減の見込みと限界

分類: 品目分類: 品目:
提案者:

4. 経済性評価

(1)コスト(単位当たり価格等)

①自己評価

(比較対象と比べて、同等、安価、高価、より選択)

②自己評価の根拠となる単価等(比較対象品目と同等の性能を発揮することを前提に記載のこと)

	提案品目	比較対象品目
単価	円/〇	円/〇
積算根拠(出典 文献名、ページ 等)		
単価比較の条件		

5. 調達時の確認方法

(1)調達時の確認方法(判断の基準の確認方法)

例: 製品納品書で確認、第三者機関証明、銘板表示等